

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第310回

田中角栄

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年6月6日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

## 仕事をすれば

## 批判、反対があっても当然。

田中 角栄は、日本の実業家・政治家・建築士。衆議院議員、郵政大臣、大蔵大臣、通商産業大臣、自由民主党総裁、内閣総理大臣等を歴任した。

## Column

今回の言葉の後に“何もやらなければ、叱る声も出ない。”という言葉が続きます。非常に“強い人”というイメージの田中氏ですから、今回の言葉から批判や反対があっても当然だったとしても“聞く耳を持たない”という印象を受けそうになります。しかし、そういうことではなく私には『その後』が大切なのだというメッセージだと感じました。私は今回の言葉を知った時に、これは仕事に限った話ではなく、人が起こす全てのアクションに対し、“リアクション”のひとつとして起こるものだと感じました。壁にボールを投げたら跳ね返ってくるように、人に対して何かをすれば必ずリアクションがあります。今回の言葉にある“批判・反対”の他に、もちろん“賛成”もあるでしょう。また、これは寂しさを感じるのですが“ノーリアクション（無関心）”もあると思います。

今回の言葉にあるように『必ず賛否両論がある』ということは常に理解しておくことが重要です。それぞれがそれぞれの立場や環境の中で様々な取り組みをしながら進んでいる中で、自分の『筋』というものがあります。違うものを提示された時は、自分より良いものであると理解できたとしても嫌な気持ちになるものです。そんな人々を毎回説得できればベストですが、なかなか簡単な作業ではないことですから、リーダーには時として“強引さ”が必要なこともあると思います。ただ、強く引っ張ろうとすればするほど引っ張られまいと強く抵抗してしまうのも人間です。そういう意味では、自分が良かれと思って起こしたアクションに対して“NO”という反応があれば、まず取り掛かることはそのアクション自体の根本的な“間違い探し”や、伝え方や見せ方が原因で、受け手に“勘違い”をさせている可能性について探ることです。アクションを起こす側は内容や狙いを理解しているので説明が十分なものだと思っていても、初めて説明を受ける側には勘違いされ、批判や反対意見が生まれるというのはよくあるケースであり、自分が自信を持って伝えたいことを正しく伝えるために必要な努力だと思います。

田中氏のように国のリーダーともなれば批判や反対の『圧』も相当なものだと思います。しかし、私たちのような一般人の人間関係の中でも近いことは多くあります。伝え方の勉強も当然重要ですが、『伝わりやすい・受け取りやすい人間関係の構築』が最も重要なのではないのでしょうか。“あなたが言うのなら”とお互いが納得した上で尊重し合うことができるような仲間を正智深谷高校で見つけ、作っていきましょう！